



俳諧新々五百題



田喜庵主人輯

仇和齋五万巻

江戸喜雲堂英文花

おほい哉とていふの故はけしきも古徳を教え
明拓の通事とていふはけしきも古徳を教え
何ゆき人々を教ふも形も古徳を教え
為さる風物をいふのちも古徳を教え
おほい哉とていふの故はけしきも古徳を教え
只童蒙をいふは初学の志とていふは初学の志
おほい哉とていふの故はけしきも古徳を教え

阿まは先師達への報恩とも思はつるも此
うらむをばはるはるをばはるを中道釈史記の
清徳をばはるを清輔の真儀抄にえり法法をば
はるをばはるをばはるをばはるをばはるを
喜の怒哀樂章らる色と知るをばはるを案
さばはるをばはるをばはるをばはるをばはるを
らばはるをばはるをばはるをばはるをばはるを
ふらばはるをばはるをばはるをばはるをばはるを

付ははるのんをばはるをばはるをばはるを
比中一也四一ハ老をばはるをばはるをばはるを
家禁のニツハふ煙房のさしをばはるをばはるを
くハるをばはるをばはるをばはるをばはるを
よるをばはるをばはるをばはるをばはるを
はめやうな案をばはるをばはるをばはるをばはるを
出るをばはるをばはるをばはるをばはるをばはるを
よるをばはるをばはるをばはるをばはるをばはるを

いふこと新五百題移來て書肆に投す撰する
す寸題に一葉余を題するものおほむも
す寸系志既ふにそむるもの身は世の疾
あはれなる年月を經ておほむんか世の疾
免くも危くも此ふるも篇よあはれむの
蓋し蓋し酒の如くおほむるもあはれむ
志す次出さん海砂と席上の無きもの
味を人の子心としか是とするの題よあはれ

輯者此書は何より撰んと云ふこと
く書すけい免す述るる者なり

因喜東寅漢物撰



天保十三年寅寅仲秋既望

凡例

一 雑類ハ本集および題字もつとて死るといふ
とも青羅系象題もる類限るも其人倫の
中に職人教られもるすゝめりてすゝめり
の類も

一 新叙多懐旧述懐祝ホの草ハ凡例を
もつとて多きもるものもるものもる
その例をなす

一 回文物名の類もる世棄ててをなすものもあ
るはこれらも凡例にてつとてもの類もる中

ふまゝにすゝめりてすゝめり

一 五叙白のまゝの中一にまゝに人かたはるものも
に於てふのまゝに人馬の語字もる人まゝ
作者のまゝに舞舞まゝに何れも昔のまゝ
を綴るもあつとてやまゝにすゝめり

一 けしめ子名縁所名を記しつとてあつとて
例もあつとて古人の園を記しつとてあつとて
くゝゝゝに新古日名の白りあつとて例もあ
百類の例もあつとてあつとて

一 新考類名は子類の類もあつとて合七巻を概

存与何例... 補... 識

田善之識

名錄 任題次不論前後

京。移竹。太祇。蕪村。蝶夢。車蓋

召波。白黛。儿董。闌更。重厚。定雅

烏頂。月居。木海。布雪。五錐。無智

蒼虬。梅室。梅價。六倉。十丈。守三

榛堂。世南。貨僕。乙彥。夙也。金菜

芦錐。岱李。仙草。白絲女。根津。瓜坊

一草。桐栖。西月。太乙。大坂。升六

大江丸。三津人。長齋。米彥。自樂。卧鴈

星譜。瑞馬。屋烏。奇淵。魯隱。井眉

○樗堂	○大哉	其來	玄蛙	備中	美作	因幡	武陵	藍外	一肖
澤芦	菊也	筑後	豐後	棹歌	成大	寸風	野楊	岱年	扇暑
蒼陽	河ぬ	鍊舟	月化	春樹	播磨	白鷗	守豊	古樂	公路
讚岐	日向	葵足	葵亭	安藝	青蘿	出雲	雪老	篔六	若也
佛朔	雙鳥	文角	弗水	篤老	泥中	千菽	丹後	遲竹	蟻兄
今是	伊豫	肥前	芦舟	梅佛	五芳	芦文	沼人	丹波	福米

塊翁	松兒	曉臺	霞外	丘高	伊勢	柯山	芙九	重厚	阿波
梅間	士朗	岱青	淇石	椿堂	樗良	凡鳥	虛白	騏道	李雪
左雀	方明	臥央	雀叟	省吾	竜石	正六	泰里	子影	淡路
而后	大魯	羅城	致山	菊所	素因	孤山	一嘯	志了女	林曹
月底	岳輅	他郎	歸來	昌作	麻父	伊賀	閑齋	申齋	太丈
沙鷗	少女	亞滿	尾張	團奴	來沙	楮來	米友	宇洋	近江

兔國	可厚	梨翁	飛驒	漫々	菱垣	葛三	瀾古	卓池	半野
米九	菊成	素檠	儲史	嵐外	一層	玉珂	東草	棋老	盧汀
千尋女	露丸	乙堂	信濃	紗雲	文水	豐女	伊豆	塞馬	大巢
叢	八朗	一茶	柳莊	百慈	甲斐	雉啄	一瓢	赤守	宜彦
白兔	月臺	若人	希言	東里	可都里	雀角	相摸	三岳	三河
苜丸	龜蓬	葛古	伯先	既飽	草烏	雉扇	春鴻	遠江	秋拳

乘化	蓬松	天涯	北冥	能登	呼亭	木雄	斗入	長莊
定詩	弄山	卓二	眉洲	寒崖	素外	風芝	時喜雨	如陵
蛙堂	田都喜	東莪	越後	似曉	逸水	草均	年風	漱石
子山	石年	季珉	越中	北園	北園	蜺洲	佛仙	秋菜
雅秀	芝蘭	石海	甘行	桃溪	桃溪	魯石	眉山	隨郎
霞江	奈岐沙	了々	九卜	自友	自友	丹嶺	鹿古	玉蓬

安房	南山	湖月	紫明	与人	平角	露秀	不材	尔弓	五岨
杉長	常陸	雨林	卓堂	默巢	雄淵	醒夫	二丘	出羽	迦孫
素共	孤米	棋溪	蘭溪	谷雄	曰人	鷄路	陸奥	五明	竹人
平雄	義香	草雨	草瑠	多代女	馬年	文卿	素卿	長翠	笑壺
越兒	凉谷	甫山	湖光	龜丸	一具	乙二	乙因	古翠	包杼
橋叟	皎月	且夕	蝶宇		麥園	眞々	東芽	大橋	才雅

秋勝	豐女	泥荷	東園	江月	午乳	恒磨	玄阿	呼牛	露守
下野	松茂	田駢	柳塘	春雄	青岐	素廸	弄化	車來	上総
北岱	陣象	雪山	流考	清客	稚篁	菊女	竹逕	無逸	俚言
祇山	藤枝	汶水	少雄	田美	静齋	兩塘	政二	言々	輪之
星谷	菅里	榮司	徒南	二川	駭鳥	桐兩	里丸	弄龜	帘風
莪香	梅雪	雪鷄	千年	素茂	方舟	名澄	下総	榮女	音人

竹妓	午心	政二	吐月	史遊	双湖	旬光	壺半	月丘	其翼
宇橋	密彦	白養	蓼太	素後	太良彦	鷄周	阿号	同平	杉抱
和田丸	胡準	無說	白雄	江戸	甘月	武藏	乙人	和風	五介
袁丁	完来	梅郷	宗讚	吏登	雪雄	柳儿	茅奢	拾竹	一夢
應尼	草夫	壽翁	保吉	鳥醉	溪齋	巢兆	雪津	上野	梅澹
茶靜	其堂	成美	花縣	太無	有臺	碩布	青岷	根菅女	山青

東海	麥洲	石湖	蕉雨	記	箕山	樂只	五陵
春路	百丸	真侶	詠婦	草雅	玉光	珠弓	爐扇
雨篁	馬梁	小圃	淡水	来鷹	梅令	和鶴	梅壽
啓山	杣芥	風	素撲	可景	其碗	大梅	南濤
雪翠	川我	仙飄	曾人	白桂	沙明	朶常	鶯笠
千賀子	舟靜	梅塢	湖山	雪江	有月	一蕙	對山
碩齋	寬雅	春器	寬雅	碩齋	碩齋	碩齋	碩齋
不尽	不尽	不尽	不尽	不尽	不尽	不尽	不尽

禾葉	斗筵	良女	乎焉	夏桂	千輅
砂粒	玄夫	菊角	泉賀	子雄	寥松
青龜	希拙	雪彥	魯仙字	秋兔	諫圃
連志	素鶴	抱儀	桃丘	其翠	北元
露舩	久臧	菊塢	以吉	斧鉞	南馬
五畔	棧車	一司	岐久守	車兩	松欣
松黑	三生	和友	露邨	其峰	巴流
露谷	護物				

新々五百題上卷目錄

天象之一

日	朝日	夕日	西日	入日	入相
日蝕	月	朝月	晨明	夕月	月暈
月蝕	星	雷	曉	曙	朝朗
山々々	朝	夕	暮	朝曦	夕曦
霄	闇	夜	昼	空	雲
夜雲	曇	虹	霽	風	いささ
嵐	夜嵐	雨	夜雨	烟	閏月
朔日	二日	三日	翌	東	西

波	淵	澤	原	石	符	山	黑	南
汐	水	沼	瀧	岩	谷	麓	紫	北
磯	潦	池	渡	巖	坂	岨	青	
濱	井	古	川	砂	堤	岨	黃	
溪	手	池	瀨	野	曠	塙	赤	
岬	浦	溝	江	牧	岡	山	白	
						彦		

地理之二

酒	廊	城	九	三	古	山	都	嶋
屋	下				道	里	城	渚
供	家	関	十	四	逕	村	下	汀
部	隱	玄	十	五	庭	漁	町	干
屋	居	関	文	六	馬	孤	市	泻
山	庵	書	字	七	場	村	駟	湖
家	他	院	千	一	古	鄉	里	連
納	家	樓	八	二	温	泉		
屋	旅	四	万					
伏	篋	阿						
家	屋							
越								

居所之三

塵	階子	笊	車	橋	戶	堀	湯殿	二階
山座	屏風	筍	荷車	棚橋	障子	垣	風呂	藏
鳥帽子	簾	艦	水車		扉	窓	後架	船藏
太刀	暖簾	楳	拮捍		庇	壁	門	隣
刀	疊	帆	寬		煙出	柱	軒	落窪
股指	筵	帆柱	船		井	厩	背戶	厨

器財之四

雷木	孟	機	鍵	繪	文	鈴	尺	鐙	長刀
鍋	土器	箴	錢	糸	文	玉	鼓	鞍	鎗
釜	箸	膳	杖	机	筆	鏡	三味線	琴	弓
罐子	抄子	五器	笠	瓢	墨	眼鏡	鞠	琵琶	矢
竈	俎	椀	傘	枕	硯	印籠	碁	簫	鍊炮
塩竈	雷盆	茶碗	蓑	錠	紙	櫛	鐘	笛	鞞

未
掃

酒盛
酥
簪
肴
豆腐
菟药
昆布
煙草
藥

桶	俵	鍊	薪	炬	駕	袴	手	塩
盥	藁	釘	油	帛	乘	羽	拭	味
苜	繩	鐵	燈	燭	物	織	米	曾
盆	白	鐮	篲	火	草	帶	汁	茶
碓	雀	鐮	燈	漁	履	夜	飯	素
箕	堂	轆	籠	火	下	着	粥	湯
	斧	轆	行	網	馱	袖	餅	酒
		柴	燈			襟		
		提	燈					
		燈						

服食之五

二月日

山田

新々五百題卷之上

田喜庵護物輯

天象之一

日

夕輝をよそへ山より日を涼し

蕪村

十か又桃のうけとる日あそび

みち彦

暮鐘初らひ日のあそびあそび

省吾

木枯やよこりのあそび上

一具

海苔集まらぬるまの日柳

沙明

朝

日 空を穿つてまきまきし朝日

樗堂

板うめをかくしけあそび朝日

成美

上

一

朝日とて定免ん井の極所
 十月の朝日は雲むせり
 十月や朝日のくる麻の南
 木つきや暖峰ハ夕日のよき如
 泡立て夕日とてむや来ぬ
 学おや夕日の跡る垣の先
 野の峰々幕の先の夕日也
 来る序は一足川や西日新
 名矣又川の澄くる西日也
 夜更のあはまきりし西日也
 卓池
 静齋
 茶静
 東峨
 来鷹
 朶常
 小圃
 蒼虬
 夜鹿
 玉光

柳々々西日のさめる水勢のあ
 日ハ福はあつちてむく聖菊也
 正さす花入り夕日新む法後也
 枯芦の中はまきりし入日也
 汐吹き入り日ゆゆる鯨の如
 入相とてゆきより秋の月
 入おまハ一帯のさゆる様もあ
 入おのここのをさよむく尾也
 日蝕の初あくまれそ荊の志
 夕ふの蝕のは葉あつめお室明
 有月
 碓嶺
 宗讚
 雅篁
 其月
 乙彦
 炉扇
 たる祀
 秋葦
 葛古

北

上

月

あちかしのあらしも志きくさの蝕
日蝕のたをれて花ふ左襟のうね
日蝕の朝は暎くうくくのお
冬的情月ありくと露ある
名跡しと花より月ハ出まらま
ちつしよ月のをとろや春の字
縮書や月ある水の風情をこ
山里やいりてさる月と梅
月新より朝なる進更衣
朝月の落くくくくつる

漱石
禾木
露谷
暁臺
卓池
楼
梅壽
禾木
眉山
瑞馬

朝月

晨明

夕月

朝月や一押暎る市の赤
有明の月より春をさるる
在明の三日月夜一園境
有明の沼は跡もやうくの如
正月も在明とゆる朝陽の家
有明の朝のひもようぬ清き水
春の日や夕月比の茶振花
藤の花ハ夕の月のうくくうね
夕月や松竹の常戸はゆうき
萱草の夕月まのくく境うね

菊角
巢兆
一具
多代女
一樓
茶静
長翠
長彦
椿堂
一肖

月暈

夕月のうつくしくさみ土用うか
春月の俊りあるか月の暈

小圃
栄司

春柳の和しく空や月の暈

泳帰

小籠くむ萩のぬくもつや月の暈

小圃

鳴る鶉月も曇りけ宵のさ

護物

月蝕

月蝕のまじり合ふ年ある時面

とち彦

うれ芦や蝕はありけ月の雲

孤米

月蝕の深き下りて男若鳴

露谷

星

明あくる空や野分の彗星

とち彦

名月よそとてあつらふぬの星

谷雄

雷

明星やいよしくささるの松

湖光

空にされて星のほたる萩をよ

拾竹

花咲や爪あもつる相見星

石年

雷一季うまをゆるぬきぬる

白雉

雷をねて夢まよひのきききき

巢兆

雷の底はさふゆる桂のうけ

田於花

雷れ百日おとちきくきき

越鬼

雷のうそりとをねて飛

無逸

雷をうや只曉の峯の松

曉臺

曉の松よりきき

南濤

曉

上

日

曙

猫の意曉うけそあまれあり
曉のこころいそほぬうとのに
曙の節うらうらふそそのもあし
あここの萩の曙ありて初うら
曙も回うらうらふのこころは
あけわのやうらうらゆる山廣水
谷の戸は曙^{コト}夏^{ナツ}燕^{ツバメ}
えりやうらふそあまれありけ
雉子^{キジ}や根を吹きさるお初け
こころ初る葉山子も嬉し朝朗

もろ紀
菊角
梨翁
日人
蝶宇
木雄
寛雅
移竹
碩布
こころ彦

朝朗

山々

五月暮の栲青^{コウセイ}臨^{リン}山々
山々の鷹のうらうらゆる
あまのまゝに夕干の山々
あまのまゝに夕干の山々
うらうらあるのやうらうら
お梅や降るまのつらお初
ゆをぬくおの目まや磐の穴
あつらうらうらの葉葉のたより
お初もその日の座や五加木つむ
あまの入梅^{イロウメ}初白^{ハツシロ}夕^{ユフ}唱^{ナゲ}あま

椿堂
湖光
東峨
さち雄
蒼虬
旬光
其月
南濤
来鷹
梅室

朝

夕

暮

朝
暎

夕くきの鐘の鳴るく杜の
 夕暮や掃跡をれくくく
 鯉ふる河沿もゆるむや夕柳
 夕ふまて茶山子もある夕山
 二度や雪の中をれま雪ぬ雪の山
 柳の木の葉をうくむ山のも
 夕ふのちしやま雪うく山家
 十月や夕きくく夕のうくく雪
 日もとくくくくく雪や枯尾
 朝暎たるくくく知を枯尾葉

虚白
 桐雨
 雪鶏
 鶯笠
 茶静
 牛乳
 東園
 柳塘
 流考
 玉光

夕
暎

宵

朝やけのる知る庭の杜の
 軽忽の朝やけと鳴るくく
 朝暎のくめくくく柳の
 夕暎のテ網をくく秋の風
 夕やけと散る雪の力くく
 るふくく芥のあわしや宵の宿
 写水跡管屋の宵の住まのく
 蓄くくくく宵のあひく
 月光くくくや時るの宵の山
 宵等の積の畔じや川板の音

草雅
 希拙
 岐久守
 ちる記
 五岨
 五岨
 保吉
 五岨
 牛乳
 廿月
 夏桂

闇

雲に霞の霞をくわ周船の
蓮さくら霞のうらま口わき
雲の入り雲を雲波の清み
目よとゆらそのたき雲の霞のま
雲の入り雲のふつをほく有る
雲の霞をくわ周船のうらま
秋をくわ周船のうらま
柳の霞をくわ周船のうらま

成美
泥中
丹嶺
月臺
應々
天涯
十丈
藍外
谷雄
菊所

夜

昼

山もや霞もさあはる
蓮の霞をくわ周船のうらま
雲の井をくわ周船のうらま
柳の霞をくわ周船のうらま
初蝶のりのもつうぬ美屋
水いりや霞のうらま
時をくわ周船のうらま
雲の霞をくわ周船のうらま
梅の霞をくわ周船のうらま
柳の霞をくわ周船のうらま

卓池
若人
笑壺
炉扇
珠弓
雀角
茶靜
南濤
梅壽
大梅

空

雲

初雪やうらあぬまに置ま
ちしるまきかゝるまきや鳴子繩
おのうく裁き時雪はまきり
鳩橋の何をこゝろみえ雪の透
あゝ雪の白しこゝろまきり
とわくしこゝろをさけり秋の雪
静かゝるまきよ霞うや秋の雪
涼しこの雪まきり跡は秋の雪
置まて曇りあゝまきり雪のま
まきりも晴るまきり地曇る

鳥酔 申齋 太丈 一肖 湖山 護物 夏桂 巴流 卓池 草均

夜雲

曇

虹

霽

明けあゝの一先りの秋柳
松の影茶て松くりりう形
名まきりまきりや山の霧
陽冬の中より虹の朝の日を
そ朝虹をうけしるまきり柳
そ消くし虹のほしりまきり
厚まきりや消てあゝまきり
虹の橋のまきり中やまきり
うらまきりや霽のまきり
朝霽の中うらまきり田植

鶯笠 泥荷 白桂 蘭更 乙二 谷雄 月臺 梅室 星谷 秋陽

風

霧を吹くまの道はゆるるさうに
山里や霧目ぬれさるうのま
霧や目をほちのうは風の呀
虫あつやを傳さるな秋の風
候うせよついで候のる学都の
朝うせを馬の家う候と死に
時向うや柚のまのてうさう風
お梅やひあさうのうは雪ぬを
舟人の跡さぬ吹やいなさあ風
葉のまひもさう候りはやいなさ

可景
獲物
曉臺
雨塘
葛古
政二
同平
湖山
雪江
菊角

い
あ
さ
い

嵐

いあさい吹まをさけあや霧のま
鴈のいうりもまをさけわり
田のまはわりの候てを
一嵐を晴のあえさうり
引明やあさうまをさけ虫のま
押身は埃を吹まのあさうり
秋のりまの候あさうり
火桶抱て斤振うまのさ
秋嵐や吹まのうり
秋嵐の吹まのあさうり

獲物
吏登
一肖
菊雄
ひは美
露谷
青羅
卧央
卓池
東幾

夜嵐

雨

新米や一盞さうらのちり跡
る所や月もあまの空の
正月のちるまれ一柳
津波も消えたるのさうさ
むらむらやあ霧ささる
ふ梅の常はさるぬ微る
かゝる死や春の来さる
のあるりの秋をさる
山の霧も深あるさる
雪やふさる霧さるしや田の

雨角
七朗
一具
黙巢
青峨
夜鹿
樗堂
長翠
二川
壽と紙

夜雨

煙

梅のあつるさるも
うらうらぬく余さるの
稲干さるや刈るや田は
山りや煙道は秋の
よき人のさるさるや
船さる煙りさるさる
あゝ月あまの月
佐保の法名も
院米の室も
於るよさる

小圃
春鴻
士朗
梅價
一具
春路
重厚
星谷
静齋
小圃

閏月

七

朔日

二日のあまの河を流すの舟見せ
新日くれらるのやと七新の秋
整結して新ももとの新同中
裕忌ぬくちのちのちのち日
類のハ聖山のまき一 香 柳
新りやとちのちのちのち柳
雨降は新新うけある二日か
花二日後ハ新てこそ新新新
吟所して新二日まきせと新
二日新て二日あまのち 船 牛

ちる記
二
卧鴈
百丸
茶静
他即
瀬更
素郷
申齋
天涯

二日

三日

東

翌

新日も二日ちうれて宵の梅
梅さくや葉汁の着は二日行
えりや二日ちうても福寿草
暑うれと二日思ふ 梅 杖 歌
花のあまは新ちんりのや翌のち
翌の米ありや芒うたれまつく
小南くや翌のちのちのちのち
干て翌ち麦刈支度中
翌と侍よるの便ち色 障 花
名自のちまきと新 宵の山

叢
椿堂
風芝
梅壽
葛三
菊所
夜鹿
孤米
嵩古
定雅

南

小松庭園のひらきハあをせき
日の出をを東とせり不二
乙をの事や入江を東にけ
お梅を乳母の都居の東が
おの江の西日おをり一
西山はせりハ東をりし
江の西の山やきしうふ秋の
西の山杉の木にゆる茅
月ハ岨の西は明り餅の香
大宮や南にらな序の香

士朗 雙鳥 露谷 淡水 蓼太 梅佛 泰里 一具 連志 召没

西

北

青

万葉ものあはれはくちの終 南
常や南をくちハあしきの木
高の南や一度は初く菰穂
枸杞垣や隣つむを南向
紫清一川や都より水
小山の南をくちハあしきの木
松をくちハあしきの木
お梅ハあしきの木
帰里風くちハあしきの木
青六のくちハあしきの木

乙二 卧鵬 星谷 梅壽 乙二 大哉 了々 菝香 護物 升六

黄

赤

橙のうらなまゝのや風うある 道彦
 森朝のうらまゝの扇と家 叢
 小松末の白ゆもまゝの雞考 南濤
 蒼梧の青いさうりを対面うま 雪雄
 雀子や青い居つてもまゝの嘴 召波
 蓮ふれを黄ハ黄まじりたる黄菊 壽翁
 雲さ中ノ黄まじりたる菊の力うま 蓑六
 面をけ付て柳も黄のさめる 龜山
 鵝啼や作黄まじりたる昼の月 梅令
 白ふの赤くさひりたる田代 太祇

白

黒

咲はうり物のまゝの赤 櫻 蘭更
 葉まじり南まの雲の赤まじり 佛朔
 吹かろひ研の赤まじり葉うら 茶静
 おもくくと拍杞の雲赤死九月 大梅
 志まじりまゝの海とや田圃の白 屋烏
 毛家の後印のまじりまゝの家 魯隱
 一具まじりまゝのまじりまゝのまじり 一具
 白葉の白まじりを人のまじり 方舟
 角りやを思ふまじり牡丹 二川
 茸物や黒い衣と法門 吏登

紫

打くも土まゝにゆく春田川
 千うらひを半うらひ運し百合の花
 ときさくく山田は春のまゝに
 埜崎のまゝに這いぬ春の葉
 井原のまゝに江戸むすむの白川
 夢のまゝに芳ゆく枯野うら
 山里のまゝに如きはふのたうら
 雲のまゝにわのんをそく野のま

蘭更
 柳雄
 如泡
 夏桂
 青蘿
 蒼虬
 一肖
 岱年

山

地理之二

高き山めつとふ山めつきれ
 むらぬの山へ落たり秋の海
 初はや山のくまはる秋の峰
 砂山や人の跡ある秋の暮
 わつら子み濡るあつや山のま
 降雪の煙りも今も禁うらな
 縮つてや禁の森は月めつら
 雲りや禁へまらるる雲の水
 細うらなふらふら二月の帯は

猪来
 音人
 静齋
 對山
 茶静
 卓池
 田駢
 湖山
 鶯笠

麓

峠

峠の静けさ 峠の静けさ

谷雄

苗付し 苗付し

沙鷗

あゝの心 あゝの心

古く記

岨の静けさ 岨の静けさ

泰里

岨の静けさ 岨の静けさ

風芝

雷色は 雷色は

可厚

静の薫の暑 静の薫の暑

もと風

吹をれも 吹をれも

露谷

山彦も 山彦も

蒼虬

子炊さく 子炊さく

省吾

山彦

塙

岨

研

谷

山彦も 山彦も

麥園

山彦も 山彦も

黙巢

山彦も 山彦も

東哉

山彦も 山彦も

夜鹿

稚子を呼 稚子を呼

秋腸

うらむもの うらむもの

大梅

耕やいつ 耕やいつ

召波

様おる者 様おる者

梅室

あゝの家 あゝの家

多代女

谷底は 谷底は

義香

坂

黄蓮の一谷（？）清きや
 雲は秋とくけり坂の清水や
 志いやつと嘘下りくう庭の坂
 海とくそく小坂下りきり表のうせ
 坂下りてあくらむ里の茅おひや
 空園や晴をよみあての下り坂
 表しつれて辛夷あつたのそ毎堤
 晴立てたのちさめけり堤りり
 茅折は詠さきもあは堤うか
 晴多しや堤の面後りり

護物

呼亭

袁丁

雅堂

あさ雄

和鶴

道彦

同平

一蕙

とく記

堤

繩手

春柳や草まうり星は星 堤
 初秋や杉よりあけり細繩手
 舳の芳は露は清き繩手
 伯樂の時をともとる暇うあ
 木を結るる面をあらうや星の芳
 厚晴の春あつた星や小春風
 けし合や不片とくあは丘の松
 志くくと温泉のく丘や冬桂
 木枯や畑の小石目よりゆる
 日寒も石より清くあは

護物

駭鳥

草雅

希拙

芦舟

泥荷

一楼

岐久守

蕪村

雅秀

石

岡

岩

石おろし山の初きやわらうるを
 川移や君とをくくく山岩のく
 岩をまやや草むらうは秋のうせ
 岩をまややつらうの草のむは風
 おちるや夕うけあはる岩の鼻
 落推や蹴をあちうの岩の上
 日のあれて巖をこくする落葉か
 さうけうは初き強ふ巖う形
 秋風や巖は若きを秋 苔 衣
 梅おとふくくくくくくくくくく

夏桂
 蘭更
 乙彦
 玉光
 寛雅
 夏桂
 樗良
 岱年
 千尋女
 茶静

巖

砂

野

うつらうき砂は小粒のこころか
 石おちるくくくくくくくくくく
 初はや砂も窪くぬ浦つらき
 砂とめぬの草尾も落つ春のう
 草芳くくくくくくくくくく
 砂をくくくくくくくくくく
 野をくくくくくくくくくく
 草は表も月くくくくくくく
 野をくくくくくくくくくく
 菊のむらさき
 後の野や日小牙うくくく

士朗
 谷雄
 言々
 確嶺
 梅壽
 道彦
 井眉
 季珉
 車来
 玄夫

牧

春を山や夕干ふけりる牧の約
ち糸息よらんあゝちや牧のち

青蘿 石年

原

重あゝそいく夜袖を原の月
月よ雲やけや故の啼原は雪

叢 ちち彦

松原よ入まむやつく日傘は

ちち彦

鶯鈴のうけりふあむや原の上

多代女

流しけり原のむつりて原のむ

雅篁

えりや木言く集りて原の春

茶静

春風や流すそ付り下弦の詠

大梅

あまあまそ屋敷城より流す原

護物

渡

茶茶を帆うそそりて原の月
後一橋もこのいづくもや原の小屋

蓼太 道彦

学枯て後一橋より集りて原

巴流

おとひ形は原の川やそこの川

吏登

沙川やむのうけあむ歩移りて

重厚

稲妻の志を流るる大河原

梅室

梅は存戸さす家あり川向ひ

二丘

川風や山流るをまけては原の春

玄夫

柳の咽を原の春をそむむや原

五明

うらまゝ原もあまそそりて原の春

炉扇

瀬

川

上

上

十七

江

池の芳や木の葉くさのさや雪ある
梅の葉の秋明を吹や江のありし
江なごころる風や昔毎々ある月
志きく有る又江をささるる庭や
花も葉も梅ありたり江の光
なく輝の尾甚まごころる入江は
晴あけやとく白のうれし津の家
稚子啼や津の小舟は風も波し
廣沼の一切るるやなごころる
沼あやめ通く藪もふえを咲

護物
貨僕
榛堂
一肖
木雄
大梅
莪香
其碇
多代女
梅塙

澤

沼

池

古池

流

梅おろや跡もを流む池の香
一日の暮る池よりさうりうき
山吹や香の毛うりき池の香
夕立や池一を似の蓮の香
堀池の葉も枯より庭の紅
古池は草履志つとく雲や
古池や枝の味あははくさるる
古池や陸飛萩の落梅
啼声もむい合をく流さる
明星のうつりてくさるる流さる

鳥頂
省吾
夜鹿
南濤
梅壽
燕村
一蕙
良女
芝蘭
牛乳彦

溝

淵

水

足ひくす流もあうて春回るな
 野の梅の枝あうけをぬ流や
 海邊はる一重さくくの暮りか
 みくく秋やほのちるる庵の溝
 菘の根やう寝て田をその杜も
 青園やあうあむくも月の隈
 日山風や木をあうくあむ園の中
 小田の桂吹雪をくくやりの水
 雪ちるるやあうるあうの歌い水
 杜もさくくや柳田のあうは隈

日美
夏桂
岐久守
似曉
護物
風也
妙明
平角
鐵兄
駭鳥

澗

井手

海

あうあうの波をくくきく枯尾か
 流のあうはあうくくあうくく
 あう仙やあうくくあうの水をくく
 柳青や柳青くくあうくくあう
 あうくくあうあうあうあうのくく
 夕まや横日のあうくくあうくく
 牡丹あうくくあうのあうあうくく
 見ぬくくあうあうあうあうの
 雲むくくあうあうくくあうあう
 海の鳴南やあうくくあう

上総
高き浜
政二
蒼丸
一肖
點巢
井月
石湖
道彦
静齋
太祇

浦

波

あゝ海は色目もなまなまの秋
 春も木の間はゆるゆる海の色
 海がしら松の枝はあり雲の色
 海うらも一日降るり冬の色
 初々も田や雲あをりよの浦の飛
 春風を起すく免浦の霧
 春風の積はいつふえ浦 縁
 浦をくもや管家の四十雀
 初着やあきて歩け縁の波
 波越一岩もし松さ世まの春

浪波
 乙二
 夙也
 乙人
 梅室
 雅篁
 玄夫
 露谷
 乙二
 掉歌

沖

汐

波をわ羽もぬくさし子規
 夕うきよの暮うらうさう波の色
 沖の宵ハ波のあうりや萩の色
 江の島の中ハるる十秋
 志々魚やいつより風一沖の山
 名葉や汐さし時々秋の境
 鴨鳴やわうけをさうる汐
 芦根撲うれても汐の色もゆる
 昼汐のさし口通さる後り所
 秋汐さし岸のあうりや時々

風芝
 小圃
 岐久吉
 越児
 一樓
 鯉洲
 蝶宇
 ひろ
 奎磯
 糸木

磯

磯をくまれをあらうとての川
ちりる白や印りもくねくね磯の勢
秋空や後志の家の葎草屋風
磯の志を先くくくくくくくく
淡山はあつた日く日やくんあを
麦前や淡を洞幾日くねくねを
あ仙の夕日くくくくくくくく
下りくくくくくくくくくくくく
戸もくくくくくくくくくくくく
雲くくくくくくくくくくくく

心彦
草雅
ちり花
如泡
包柳
菊角
巴流
夏桂
護物
ちり彦

濱

湊

岬

嶋

初層や湊の灯籠消く、秋は
秋風や勢の目あても湊の燈
いさよあや、くくくくくくくく
一、くくくくくくくくくくくく
稲つり、くくくくくくくくくく
麦柳や岬、くくくくくくくく
飛くくくくくくくくくくくく
炉寒や雲、くくくくくくくく
あの高、くくくくくくくくくく
切風、くくくくくくくくくく

梅室
淡水
夏桂
蒼虬
守豊
卓池
玉光
湖山
車来
甘月

渚

新市の厚崎のあつれをさるる東

獲物

若風の小田よりつらつら渚り形

季珉

初夜や渚よりせぬ炬の炭

菊角

汀

小貝あふく踏ちしるる汀りる

谷雄

雲あれのあつた行より秋の月

青岐

干
泻

春るや聖小津さうあを干泻

梅室

干泻よりあつぬ及つさうり

むらみ

湖

いとまき山脈の脈ある五月南

みち彦

うらむまの崎あつあつしるる湖る

う都里

底光りまらぬ湖あるをさるる入

松兄

漣

湖子免よりうらつら初しるる

谷雄

落葉しる湖あるをさるる庵

巳流

漣とありぬ聖田のめとるる

鹿古

さつ波や浮葉のせり雪の峰

田村花

さつ波をさるるま田や五本立

月基

さつ波や蹴の葉飛の二日月

平雄

さつ波の底より白ふはくさ

清容

葉のむのさつらみらる都るる

曉基

都

正月や都の町は松の序

蘭更

海棠の虫をさるる都るる

みち彦

都つのもちこして出たりあやめ奏

志 盗女の多る都より船

城下

初冬や埴川の早の明りぬ

足て通る落葉の雫下の春風

町

春の秋もくもく月や連歌町

青柳のよる下宿の京の早

門締町つらつら海子小

移りぬけ所側町の秋のうを

元日の空もこもる町家小

市

わづれは日替のりる溪の秋市小

年波のよせさる市の蒼埃

市よ如く各業も吟在委小

青市は買てお教むきさる

駅

業さくや駅くの酒季

起るそよおの月ゆる駅や

酒客く更け駅の燈籠なる

駅路の鐘もよあけけけ行燈

里

里中や雲そめさるさの山

半るも並んで里の月見小

里ありや業しるは来て業つる

田原志

二道張

志彦

祿帰

召波

椿堂

一具

一蕙

春路

小圃

如泡

沙明

林曹

巢兆

百丸

小圃

草推

春鴻

来汐

卓池

村

山中の里や浦の明くまを
山あそびや杉より葉の里つき
わの作や村る朝の麦のよ
枝村ハ仕舞のまやい踊りの
相抱し花の村やまをれ傳
昔時や隣村まをまや里
烟帯て孤村の柳日くれと
提灯のしるれまを孤村ハ
夕立のまもまを孤村ハ
雲の峰孤村の矢の吼るや

秋奉
泰里
蕪村
星谷
駭鳥
一蕙
蘭更
荏叟
廿月
護物

孤村

漁村

江をさるる漁村の友や岸の角
まをれを漁村の柳枯まを
木も作も柳まをゆる漁村ハ
古今の伊勢あをとり初日新
古今を何う何やいら新のまを
茅の編かて燕しる新古今ハ
是非もまを我古里やまを
古今のまをまをゆれ凡中
子を抱て温泉の月歌くまを
野啼や温泉まをまを極のまを

太祇
士朗
まを
樗良
の都里
茶静
藤枝
護物
乙二
宇橋

古郷

温泉

野啼や温泉まをまを極のまを

宇橋

七十五

新橋も空しくとわりの温床の白木雄

四五本の桐おきや温床の榊一迦孫

芍薬や孫もちぬん温床の宇治武陵

古もちや横をうりて啼き雀一肖

古もちや潜きあつらも敷掛子露谷

古もちや雨の母ちる暮しの穴雨篁

空の舟も舟はうらぬ匠の形湖月

春もぬや徑をりを妻とあら一夢

川鯨も徑の多き山吹の形これ成

うれ枝も折るはなや庭の萩湖山

庭

徑

古道

我庭ををぬ日もあつた冬のもる来鷹

新かゝも這入るもくも梅の庭青亀

けきや陰もつちもこの庭の軒連志

さうもくは啼や風ある木の馬場春鴻

菜の巻やる場の林の遠道也日人

る場の軒さうのあもくも折るれ赤一具

小手毬やむけさるる場の古たり玉光

土もつるる場の枕もやや雪のこも夏桂

押中しこ塔一蓋のわりの葉介巢兆

道一葉もくもや咲きこりけり数ひ二

馬場

一

七十六

二
 一掃ゆきまの牡丹のさきか
 若葉の一本のさきか
 梅のさきか
 山里の二日琴のさきか
 為主の家の子のさきか
 家の子のさきか
 二つさきか
 三
 一
 二つさきか
 三つさきか

風芝
 駭鳥
 素撲
 四巻
 名澄
 廿月
 應
 連志
 士朗
 素傑

四
 梅のさきか
 月之秋のさきか
 四方のさきか
 四つはや四女入
 雲を焼四十男や
 土間のさきか
 必代や君のさきか
 月之さきか
 梅と月そのさきか
 五
 梅のさきか
 月之秋のさきか
 四方のさきか
 四つはや四女入
 雲を焼四十男や
 土間のさきか
 必代や君のさきか
 月之さきか
 梅と月そのさきか

葛三
 梅壽
 羅城
 松兄
 三彦
 蒼丸
 曉臺
 士朗
 岳輅
 篤老

六

古畑の五及つゝも梅の嶺 乙都
 園控へ六日の志は老務人 蓼太
 花の宵あけもも六田泊 大魯
 立秋の浦あけしうぬ六日ゆく 乙二
 葉の裏や六日まうりは月ぬり 儲史
 七くこの七朝さし柳うぬ 乙二
 所へはぬむす宿うら七とら 卓池
 七秋ゆく勢も負うら子規 石海
 花七日うふ小菊は板家うぬ 子山
 志七日それしもあまは泣ひ子、 小倉彦

七

八

掛乞の八日の葉をとせまうら子 儿董
 八月月うらひは初ふふれしを 成美
 浮葉ゆきさ葉葉はるの目分星 世南
 明やそく葉しとまうり八重葎 寸風
 ハ重葉うらひ葉しも子規る ちさ雄
 永らうらや葉をつまみお九しひ 左琴
 万の屋もくれり九月九日外 乙二
 秋の八と板井をとめる九日うら 星譜
 大根のむらり花うら九條外 文角
 萱蒲葎うらうら九つ階外 夏桂

九

十

十周年の日のつく梅の蒼乳
うらひせや初春のつとを十斗
いとをうさ十斗もきくぬ筋子
初増やむらつ時ても十粒は
さくく木や時るは花の十さうり
わらきうし漕出は舟の十文字
わりの葉吹中や笈の十文字
り手や田うのそも十文字
百日の狸切屋へ経うり
百子の蕙るや共は本ときん

粟兆 月居 椿堂 馬染 曾人 梅室 千厓 護物 蕪村 蒼乳

百

十文字

千

はりのひよきと丁百抄やうめのも
わりの葉百粒はうらまをり
六浦や村子新の夕うらみ
子めと咲花はあはれ女房
茶代や山のうらうらきあのみ
万日の仮家うらうらこき
秋の新や万粒めくる油き

菊所 詠婦 露谷 護物 士朗 り風 淡水

万

○居所之三

上

三九

城

少政東へ向ふ塔下や江中の敷
青柳やるゝぬねたる後の塔
杉の虫塔の石屋、新蓮死
りまのまみうらや五塔山
塔をそと刈田のうくの携へられ
園の戸やつく持たし又梅のど
雪舞やうやうし死園もあ
園の戸は移のうらむわうを介
白川の園にぬ鳥やま庭裏
藤の虫のそとや園の表のうこ

太無
樗堂
東芽
一具
多代女
蘭更
道彦
今是
不材
舟静

関

玄関

喜作法は雪車まのける玄関が
木うしや玄関は降るうみ磨
刈縮り玄関あさける形や
喜るの玄関はとそる欠り於
雪杉の書院へ通る柳水
那とせける書院の二月う形
橋の打うけささるゆら
橋り七夕つるは法伽り
あつちやの園をめぐるや時を新
四阿は福中るあつちを置巨楯

皎月
り風
真侶
巴流
星谷
茶静
奎議
白雄
東芽

四阿

楼

書院

北

三

廊下

四阿はききあれ...
 何れも屋はたけうけである菅蒲は
 四阿をこまはあれなり字の茶
 廊下を奪とる夏の氷うな
 豆蔲の蔭もとうぬ廊下は
 梅は月廊下を通る人の氣
 涼しきや曲り家の松はえん
 うら家ハ恒く...
 雀啼て起る小窓や木瓜のお
 こま何れや二夜は暮るる答の家

みち彦
 袁丁
 五岨
 其^{か賀}翠
 淡水
 夏桂
 道彦
 乙堂
 煤雪
 龜達

家

隠居

庵

一ツ家のる大なり...
 うつりさや隠居へ通る茄子畑
 隠居をとり泊るまあり萩の雪
 茶の処や七畝をうりの隠居先
 隠居をまき五人押合ふ后の月
 梅さくや萩具も...
 早苗舟庵少く庵の性来ゆ
 系庵や...
 榮咲や垣結い...
 必家の中ふ...
 徒南

正六
 三子彦
 二丘
 廿月
 沙明
 岐又守
 鏡舟
 午乳
 田駢
 徒南

他家

ちくしねの衣を庵の余をきり

炉扇

他家の戸の影もなやと蝶の夢

みり彦

他家の灯は款はくくくくくく

甘月

故のきや屋のしきあは他家の木戸

護物

旅籠屋

ちくあやのゆきたきくききき

一具

椽はちやと出て時をうりうりの上

越児

不二講の先きききききききき

弄亀

ちくあやの板の男むりきききき

春器

酒屋

酒屋のしききききききききき

谷雄

は福うりききききききききき

一具

供部屋

むく子ききききききききき

多代女

和はあきもくくくくくくくく

大梅

藤てりききききききききき

梅壽

供部屋のしきききききききき

一肖

修治屋の候あききききききき

護物

山家

神子山家きききききききき

卓池

あききききききききききき

岱年

梅うきききききききききき

猪束

旁のまききききききききき

柳塘

屋ときききききききききき

沙明

納屋

むく起り新々立ち入り納屋の口
志くくくや納屋くらまふ新のり

谷雄

伏家

雑の灯は縄の垂て舞ふ伏家
うらひまの漆と漆もまぬ伏家

大梅

七巻と伏家のまきさやの葉は

岐久守

家越

一十鼻は火桶をぬか家越
連麴の衣去はる家越

玉阿

お月や襖帳うして家越

孤米

二階

瓜のまや夕日を携は二階
おとまひ夢の紅掃二階

木海

抵とせよととくあつる二階

乙人

二階のうら扇落はやわくの炎

有月

湯あつるや二階く掛けし百合の花

岐久守

蔵

酒蔵の修葺まをるやありの花

一肖

粗蔵よりうらふされて初梅

昌作

細蔵の壁のまきよは梅のつと

言々

り厚や寝いし中ぬ候の蔵

小圃

蔵ひとりのまをりてやう蔵のむ

禾木

船蔵

船蔵は嵐のあそふ蔵り
二舟蔵の二階はわらふをり

梅室

隣

新菴の掃除をくわす跡暑中
いさよひや森の産みの法新菴
外より隣のあるや五月る
心より有り余る隣の故きりや
岨の梅ありき隣ありきり
灰汁桶は隣の新ちりきり
米をほく隣もありやま仙を
落窪の水ふまのうく月夜うき
落窪の産みのぬくを啼いと
血珠はまきとさ交る厨のり水

春路 獲物 榛堂 素外 沙鷗 卓堂 甫山 月丘 淡水 葛三

落窪

厨

湯殿

風呂

後架

る蘇子多きぬれくる厨のり那
蓮咲く芦のうき厨のり那
ちりくと揺ちりおむ湯殿や
あちちや湯殿の産みの産みの
お風呂の一書入やり 始
生来しおけり風呂共わりの産みの
蝉なくや風呂は土焚藪の家
庭掃く初夕まらや風呂あり
山見つる長風呂とくまの宵
雪限のうけりまのり産みの

の風 石湖 一具 麥洲 篤老 一具 季瑛 啓山 月丘 召波

門

軒

穽 萩や百姓町の如く一則
卯の如くや壁の崩さく一則

とら彦
名澄

志道く一と後架の事をとくせたり

仙瓢

むくの事や雪隠をさく泊りや

詠帰

よさ人の門にさくさくお事する

升六

門をさくく二井ちを初道ん右

菊也

筆や甲子よちの如く一門

碓嶺

あやめさく門内ひらく一宵掃除

梅壽

書を抄くくゆるや堀ま門

禾木

鶴梅くくゆるくを斬りく葉

春鴻

いと書や如くさく一軒の如く 芭

巴流

西月も有明くゆる軒端の如く 一

一樓

心より身や軒の氷柱の如く屋並

梅壽

軒よりお事さくく一境の如く

岐久守

脊戸

園ふくく脊戸くく一軒の如く

春鴻

曉の籠子我脊戸たつく一様ん

車来

梨子咲や脊戸ハテ雪の如く細

越児

梅くくや脊戸くく一軒の如く

菊角

脊戸門は咲くく一軒の如く

禾木

梅くゆるお事さくや堀の崩さく一則

とら彦

堀

垣

窓

十月の月影のさすや垣の屋根
青柳や柳のさす垣のうら
梅盗む手のつげさすや垣の内
去先より竹垣まきし初さくく
あさかしのやけさす垣一重
まき梅の干枝のまき垣のひや
垣越て志をさす垣の雪のり
うらひさす垣ありく雪のり
東風吹や梅のさす垣のちのさ
あつてり序さす垣のまき

けめ
嵐外
鶯笠
目鴈
卓池
如陵
湖山
雪翠
道彦
日人

壁

柱

まきのりやまき果報のまき
まきの掃ゆ垣のまきのり
まきのりまきのりまきのり
炉のまきのりまきのり
まきのりまきのりまきのり
山里や壁ありまきのり
壁ありまきのりまきのり
初まきのりまきのり
まきのりまきのりまきのり
まきのりまきのりまきのり

嵐外
大海
木木
五明
葛三
卓池
多代女
八朗
蘭更
蒼嵐

厩

大空のあまの極の羽織りの水
うらわりの柱よりさのりてきりさ
書又入のよき教うのる柱のり
あもくと棋掃あむ厩のり水
厩まて掃陰つとめそくあのみ
あ〜〜〜あ厩のまぢや葉のり
福葉を〜〜〜えりの厩のり
初年の厩を〜とむり燈のり
桶の法〜〜〜つてあまの戸のり
戸のりら余所の〜をたうお書

年風
梅壽
護物
一具
風芝
星谷
詠婦
護物
東芽
梅室

戸

又内や千りの白とる戸一枚
あ〜〜〜の窓はあうき戸口う
あ〜〜〜の戸はあ合ぬ化粧はる
夕暮や障子の影も神々月
七〜〜や障子被ある燧の書
芦あ〜〜や障子みうき料理書
明け事や障を〜〜〜障子のり
岩のあやう〜〜障子は不二の教
火もあ〜〜や居道ハ秋〜〜扉のり
七〜〜や関の扉も〜〜明ふ

木雄
呼牛
栄女
月居
一具
塞馬
啓山
護物
蒼虬
雪山

扉

北

南

庇

江里や春の月さそふ葉 庇 自樂
 稚子啼や朝霧をまろ 庇 旬光
 ちりりとるもつさよふ底のふ 庇 玉光
 月うしし松虫をまろ 庇 南濟
 夕うほやまろしとゆる井底 庇 千賀子
 水暖味やあひたろ 煙出 春路
 雲圍の光無ハゆト烟出 庇 護物
 袂のく襦袢の何井の露うま 庇 巢兆
 井ふ露をそ破もやのそふのり 庇 乙二
 あけく井ハめの露をそこののそ初娃 庇 夙也

煙出

井

橋

沸出 井の色をゆるわのそまや 庇 妙りみ
 井戸端や有けけまそあいのま 庇 岐久守
 盆の月家路は橋もつくりあそ 庇 蒼嵐
 釣をふ山をそゆるの秋ハま 庇 五岨
 そのと踏橋月秋の六橋のね 庇 千年
 その橋より氷つさけりまそ葉膚 庇 政二
 橋うけと夕より葉の露をさろ 庇 茶静
 柳橋やむゆしそふ 庇 士朗
 柳橋や春風ふ中の材のま 庇 卓二
 柳をの露を捨るらんけり 庇 り風

柳橋

○器財之四

車

跡る雪車は消去部也
故よりははらうけを並車也
五月るの冲を押する車也
地車は引うけをある物也
岸月や車り物との如きも
さうけをく荷車面する物也
荷車の格城は冬や年の物也

荷車

保言
東芽
谷雄
東海
寛雅
車未
夏桂

水車

水車有明をくいとの
山吹りあつるあよる車
三日月や川流りをもく
空の板やをりけりの拵棒
うらひまの山合うらやまの物瓶
木葉あつる物何るもの物瓶
蕨採りて管より流るる物也
蛇方くや管を束するもの物
葉のまや管の末を流るる
さうけや管を裁りて取乃

拵棒

管

水車有明をくいとの
山吹りあつるあよる車
三日月や川流りをもく
空の板やをりけりの拵棒
うらひまの山合うらやまの物瓶
木葉あつる物何るもの物瓶
蕨採りて管より流るる物也
蛇方くや管を束するもの物
葉のまや管の末を流るる
さうけや管を裁りて取乃

杉長
蒼乳
一具
来汐
逸水
奈岐沙
太祇
名彦
霞江
團秋

船

いたるもや見をさるるも此者 可景
 海東や船をさるるも飛雀 士朗
 蓬萊もむらさきのハ推う船を 椿堂
 亦あてし雲やめりふあらし 梅室
 夢をさるるも歩やさるるも田川 風芝
 川舟や月のうらやむ相火桶 砂粒
 炭竈や筏をめりしを明り 巢兆
 筏りも足袋脱捨て夕折 梅價
 梅くしそそ来あらしも筏を 草瑠
 とあしり筏のうらそ飛 露 言

筏

管

小やさうり小筏をさるるも月影が ちる紀女
 秋風やさるる眼のり管の曲 星谷
 管とつて形似のありさるるりや 涼谷
 管ふや枕をさるるをさるるも 静齋
 麻あらしや管をさるるも月影が ちる紀女
 雲風や丘管をさるるも 泉賀
 船を肩よりさるるも松をさるる みる彦
 船揺りや雲葉わら葉の山う出て 西月
 船のさるるも訓と揺りやむの晴 不知作者
 うしるるも船をさるるもおとさるる 岐久守

艦

扱

扱の音波をそそぎてきこえん

静齋

扱あつてあつてもをいじりて

りて

帆

立扱子一笠つるか回のとちり

菊角

遠帆の下あがりたる扇の厚

谷雄

夕されを入帆の多きと後

大梅

帆柱

入帆つもさうし海濱の帆柱

寛雅

あつりしや帆柱ゆるるる

而后

帆柱や門松飾る風の牙

玄夫

階子

帆をらふ帳明あつるや春の扇

啓山

梅のむし小階子うけん透もあ

と彦

屏風

山傳あはれあうけたるるのあ

寄淵

雲の表や嵐の波あつるも

雨林

けしこうけつてあつるも

護物

公家町や春の波さ金屏風

召渡

兼のりや春の波さ建屏風

み彦

小屏風を詠えてあつるも

谷雄

炭の表は屏風あつるも

雅篁

関守の小屏風あつるも

護物

海棠や戸させし屏風の玉

闌更

あつるもあつるもあつるも

了々

簾

筵

端幄の動りくわり竿か
みしうねや雪の隠りの来る竿
むちの款の古きよ煤暖竿
膏初の終り初うふ暖竿か
降雪や雪の隅の暑うし雪
小志めりの雪ふ来るや初の花
麦秋や雪のうしは雪の糞
又うまふ稲つる白ふ雪か
雪の雪ふ款の白いし雪
雪ふし初う入る門のむし雪

迦孫
梅壽
白鬼
春路
三彦
岱李
葛古
川峨
曾人
布雪

畳

暖簾

蔭

圓座

烏帽子

山加賀の月夜をふらの捨むし海
拙うねやむしりしけし交りり
ての飛や搦臼体む掛りしり
蔭蒼りし人押かき年の市
交りてし鞠場の蔭や松の花
石梅や陸尺体む門の花
涼しきりぬ巻と名付し古糸生
朽篋り百と世経る糸彦か
初しき眉は烏帽子の常か

其翠
雅篁
甘月
ちる記
田都喜
五岨
護物
みち彦
碩齋
蕪村

太刀	刀
赤河一若く旗うまぬる若の毒 有帽子若く白川越はる毒の山 恵布一若く人の若國や田字とを 此火焼く若く人の若國や田字とを 赤納の古刀うまぬる毒の若 骨正月増賀の古刀も祝の 宿うせと刀投中は雪のうぬ 陽突や刀うまぬる毒の若 五月の毒や鞘つちうまぬる山刀 わの毒をうまぬる毒の長刀	折うけと刀あつける毒の若 銀差の柄うまぬる栗植の 折うけや銀差うまぬる結賣 毒風や古刀折の目八分 毒立て難刀うまぬる毒の若 毒毒や古刀折の目八分 法輪は難刀うまぬる毒の若 嫁入の古刀足ゆる毒の若 木うじや毒の若く毒の若 夕立や毒の若く毒の若
召波 乙二 帶丸 越児 蓬杣 護物 蕪村 斗入 東芽 卓池	一具 曉臺 護物 太祇 蘭更 草均 一具 五岬 東芽 一具

鎗

七
 日一

弓

弓引ハ武蔵流ありや子日の世
 箭業や袖まくありふ弓初一け
 ハ新や藤子うき一雀弓
 多新や海苔干うのにおと弓
 弓張一信や春ころの門の材
 帰る層那夷の矢先まき新なる
 吹矢あきくをきあう一野路の末
 春の空春上りよむく矢このを
 总括鬼門射る矢のむけ交
 山あまの中ふまくる吹矢小

春鴻 世南 一肖 夜鹿 茶静 曉臺 蘭更 東芽 乙二 半丸彦

矢

銃炮

狩人の銃炮うらや雪の中
 葺山や赤銃炮の一うあり
 大筒の春春の流や中とまき
 耳のうら銃炮あるや雪の山
 銃炮を入ぬ山方うはうう咲
 礼房と本るや靱のせううの季
 萩より小靱もあうぬ夕のる
 靱もも盃さううと泊り狩
 志のうらと靱おさうさく野村新
 赤の志の靱あさうさく山流り新

太祇 呂波 空彦 大梅 護物 曉臺 谷雄 茶静 桐雨 里丸

燈

靱

佐原

鞍

号のききりおとゆれ 襖うる 護物
 鞍 壺 年ゆきく 糸せる 糒 卓堂
 繩 上けのききりさくさく 糸 多代女
 うき壺や指のききり 節の心 甫山
 曙のききりや 泣ききり 雀 叟
 夕鳥や鞍汗さき 長谷門 甘月
 古琴や 蕭出たり 暮の暮 曉 臺
 飛一 琴柱のせきや 琴の 周 秋 拳
 琴一 秋 砧のききり 秋 や 竹の 美 十 丈
 石 梅のききり 吟や 琴の 反り 星 谷

琴

琵琶

この出り 法なき 琴を 抱えたり
 梅 梧 琵琶の己の目も びりり
 ひと 負て 携わたり あり けり
 琵琶 抱く 練のききり 宿 物
 笙のききを 時く 出せり 冬 木 立
 簫のききり 不 音の 海 二 丘
 吹 有や 笙の 吹 中 嘘 造 仙 芥
 丘の家や 笛のききり 心 東 芽
 秋の 笛 笙 田のききり 心 寒 屋
 松の 笛 笙のききり 心 草 均

笛

簫

六

上

四十四

上
八
四十五

子笛より似て吹奏は四月廿 蘆汀

雀よふ笛や枝のぬりりり しの風

尺八の音はさきさき みる彦

尺八の音はさきさき 成美

尺八の音はさきさき 一具

尺八の音はさきさき 箕山

尺八の音はさきさき 不知作者

尺八の音はさきさき 春鴻

尺八の音はさきさき 葵亭

尺八の音はさきさき 半龍彦

鼓

杖させを教らるるゆきゆき 茶静

布の音や鼓のぬりり 護物

三味線の川ふさぎ 暁臺

三味線の川ふさぎ 眉山

三味線の川ふさぎ 其翠

三味線の川ふさぎ 原谷

三味線の川ふさぎ 成美

三味線の川ふさぎ 乙二

三味線の川ふさぎ 一肖

三味線の川ふさぎ 星谷

鞠

三味線

あさりや音をきかせるはくはく鞠

二
星谷

碁

うをりあやのほは住蘇ちぬ鞠の場
碁のりまけと菊のあやや市地打
碁盤あはと清あめの家やおああを
あはれあはれと碁盤をひくあ
あひあはれと竹極のう碁あは日
山里よりよれ碁の鳴あはらん
袖のあはのあはれ碁あは碁の側
あはれあはれとあは風呂あはれあは
あはれあはれとあはれあはれあは
あはれあはれとあはれあはれあは
あはれあはれとあはれあはれあは

越 児
且 翠
茶 静
玄 夫
護 物
蒼 虬
屋 烏
葛 古
茶 静
あはれ

鐘

鈴

玉

あはれあはれとあはれあはれあは
あはれあはれとあはれあはれあは
あはれあはれとあはれあはれあは
あはれあはれとあはれあはれあは
あはれあはれとあはれあはれあは
あはれあはれとあはれあはれあは
あはれあはれとあはれあはれあは
あはれあはれとあはれあはれあは
あはれあはれとあはれあはれあは
あはれあはれとあはれあはれあは
あはれあはれとあはれあはれあは
あはれあはれとあはれあはれあは
あはれあはれとあはれあはれあは
あはれあはれとあはれあはれあは
あはれあはれとあはれあはれあは

唇 虬
一 嘯
對 山
あはれ
春 路
春 鴻
上 朗
あはれ
乙 二
卧 鵬

鏡

印
籠

眼
鏡

つゝもや中かた様一尾の君	菱葉の眼鏡うけたる大工	鏡の中心を去られたる如し眼のま	掛りぬる秋風をよき眼のま	おけくおけのやめ眼鏡は曇るも	年々々々々々々々々々々々々々々々	常々々々々々々々々々々々々々々々	昔々々々々々々々々々々々々々々々	秋風や鏡を曇るゆゑの身	竹の子や鏡を曇るもを	栴苳花鏡を曇るもを
移竹	田都喜	星谷	伯光	成美	女千賀	田都喜	一具	道彦	蕪村	蕪村

櫛

文

文衣中かた様二人	中かたの茶仕する妙	部ありや櫛一枚も年用	七夕や拾つての縁をう櫛	櫛とれたる白髪の子を	炉印のや櫛をうる古き	うゝみずうれる本をうめ	播布やうゝり中様のみ	墨落る能く女のみやうの秋	文を女手りたる首ぬまの虫
蕪村	谷雄	女根菅	乙二	乙二	吏登	多代女	黙巢	星谷	名澄

文管

又管のうらまのさか冬至
阿もさわす文管をぬは折戸
ふく管の帯は白か根芥うら
七夕も色ぬ又管の底うら
いさうひの園り筆ふむ前
筆結のおとれりや筆の前
禿筆の帯めそ度着筆
筆とれを机つめく福来筆
これ筆の世にふまきくは筆
夏百日筆もゆのうぬあうり

省吾 茶静 可景 護物 守豊 閑齋 了々 如陵 茶静 蕪村

筆

墨

硯

紙

墨澗の墨の付るりかきり
墨は墨の曲りもく日新もく
墨は墨の曲りもく日新もく
墨は墨の曲りもく日新もく
硯の夢もくもくもくもく
あれたるあつたの硯の素
わの字や練のあつた硯
涼めとて母の曲りもくもく
あけいもく硯のあつたもく
水仙や川に紙の園り

蒼丸 天涯 苴丸 茶静 青蘿 三上彦 椿堂 谷雄 玄阿 宿先

繪

糸

葉ささくや蓍将あめるぬき机
 尾崎のくく網より嬉し芥菖
 角三とつそ梅まつけくきしそ梅
 房多くや壁をたれそる隣房
 菊さくや偶々目をめり仏娘女
 彌ハや壁よりけたる娘の古し
 江中の弦のあらうりそる空守り
 羽子板の弦のうらるまよ十とせそ
 絆白や連翹のむお指し
 河燈は糸層下たききり那

三木彦
 梅壽
 護物
 夏桂
 みち彦
 卧鵬
 田都喜
 寥松
 一肖
 霞江

机

瓢

枕

去くそや尻もむきそぬ針の糸
 雛さく男さくうり糸屋うぬ
 雀子や書写の机のわたりそ
 端をそり並そ机や花の華
 初まりは菊子のをうり経机
 かんある瓢の米もある日に
 うら瓢藪お子ふりうり
 福あさく瓢さくけそ水鶴
 うら瓢藪さくけそ轉いり
 妻の日は枕年付しそ終り

玄阿
 岐久守
 召波
 女千賀
 露谷
 東芽
 黙巢
 蕉雨
 不知作者
 保吉

錠

鍵

五月るや梳りうらる葉のたぐ
梳してまゝあえんあつぬ葉のる
月涼しめたる梳は落うた
逢星の梳平まゝその瓜ニツ
さゆらわのうらば梳ゆく月見ゆ
梳うけそゆるもむつう一花蓋
梳むらひ香や田面の秋をまぬ
乙多やさむつゝ梳は啼きしと
空菊や梳をわきれ一苔の上
宮中不梳うらめて一自見か

乗兆
長齋
桐栖
笑壺
蒼虬
一具
小圃
露谷
寄淵
谷雄

錢

杖

白うや恥うらるる袖の梳
本堂の梳をく香や壺の月
砂中くくり梳うらぬ五月る
梳むららの実まて梳やわを氣
うり材の秋ハ小砂の用うま
船負や連年かうせるちる小砂
老う身や杖はむらび一小根川
夕う水やりのせうける老の杖
杖をせんびの梅をう志ありあを
梳子むらり啼や十歩の杖のうら

涼谷
梅價
五錐
塞馬
可厚
桐雨
樗良
士朗
君胤

笠

杖實を嘗うゆーる交れ
 うけりふや尻子あんと洗ー笠
 市女笠あとかさひくや菊のま
 妻妹や木うー遊て川市女笠
 笠の端まをわあうーや山の月
 雪却や山名言打て笠あー
 袿よれをさー傘恋ー夕柳
 巾の芯は添えうーぬやあれ傘
 常やうーゆゆら松の中
 之ーる傘うーあうる怪りぬ

春路
 仙草
 米友
 星谷
 寛雅
 圭洲
 道彦
 梅室
 木葉
 春路

傘

椀

茶碗

盃

山ちやぬうる日の沙黄椀
 あちさのや椀は沙りし沙黄椀
 椀あせを稲刈り出る庭子うる
 常あや茶碗さー和馬の上
 何所へ井子むてさうまや茶碗
 昔もあはれ一ツあう茶碗
 茶碗さーよる年をてまめは花
 かさひのちや菊は茶碗の茶碗
 盃とさうる白あまの生茶乃る
 垣城の盃りさ橋木乃る

春鴻
 関更
 啓山
 車蓋
 与入
 了々
 田都喜
 井眉
 良

五十一

土器

七くくや 壺のりも 器のくく
 盃をとる 手はむく 砂のり水
 壺のりひのり 砂のりや 壺のり
 うくひひのり 壺のり小土器
 土器をぬく 壺のり白ひのり
 土器のり 壺のり壺のり 壺のり
 杉葉のり 壺のり壺のり 壺のり
 挿人の壺のり 壺のり壺のり
 壺のり壺のり 壺のり壺のり
 壺のり壺のり 壺のり壺のり

呼亭 月臺 星谷 蒼風 谷雄 茶静 巢池 蒼風 卓池 雨塘

箸

簔

機

箴

傘をかうくく のりや 女房か
 簔買く 志賀裁や 壺のり
 弓のり 壺のり 壺のり 壺のり
 簔のり 壺のり 壺のり 壺のり
 朝つう 壺のり 壺のり 壺のり
 このりや 壺のり 壺のり 壺のり
 壺のり 壺のり 壺のり 壺のり
 壺のり 壺のり 壺のり 壺のり
 壺のり 壺のり 壺のり 壺のり
 壺のり 壺のり 壺のり 壺のり

禾木 青蘿 卓二 梅壽 其峰 禾木 舟静 千賀 露谷 井歌

五十二

膳

歳をくらす芳あめのかきあはれ
膳子の四ひやうやくうれの香
膳くせや扇わきまの膳の膳
すつ宵や膳の先なる伏見糸
膳ははくまの膳のやうりか
膳ははく接殺うもむま
喰売のねめく産し五葉抄子
年の初や嵐の笑ふ五葉一具
五葉一ツ土りふまむ田植水
山川や流るる五葉はなく嫩

准東
卓池
谷雄
星谷
阿方
梅壽
東芽
葛三
嵐外
草雅

五器

抄子

雷盆

杉箸のよあれる宿の香独り
年玉や抄子散るふ子の庵
女星ははられうまきんこを抄子
夕鳥のやや抄子のうけあし
古きうや流るる膳ふ小組
組の香時免うんくられゆ
すき板の餅かよをん柳うね
りるもこく産産の小組
組り香あけける木芽うね
正室のそれし香と鳴るる

千年
太祇
之あ彦
露谷
葛三
蒼乳
了く
黙巢
星谷
之あ彦

七

五二日

不リコギ
雷木

鍋

釜

枯草やこゝろ木ありけ管のくち
扱小木も世もあつて由ぬわの草の秋
とくあ木もよく賣る日お仏生書
雪のく戸や鍋の蓋ももあつる桂
名有年一鶴うけ家や書つてこ
瑞段ふ書おけいけやたつてこ
あへ蓋もあゆれうさや月のも
ふ蘇や投中くある危の鶴
釜の鳴きも六日の福茶つる
まゝなつて釜の鳴きむ芒也

夏徒
道彦
葵亭
東芽
蒼虬
一鶴
雀叟
竹遷
夜鹿
了

罐子

竈

塩竈

釜洗ふ法もあつたりや法も一咲
花咲く陣もぬき茶釜中
入の傍に釜買あつて二日小
鳴るも鶴罐子の書留のよこし
まじくと罐子のあつる書り小
梅一枝竈の神も書や初家
溪町の書もあつてゆる竈うぬ
塩竈の煙もあつる四月うぬ
志月竈のたもあつる春路
塩竈の入口もあつて春路

草雅
其破
梅壽
風芝
護物
葵亭
可景
茶静
春路
箕山

桶

飛くくくく 陸竈むくく 梅のむく
 小空の桶あくくく ぬる小まき
 家あくくく 山あくくく ちるや桶の水
 けくく 井や壺くく 桶あくくく けくく
 うるのふや鹽あくくく む子のやくく
 際 の 氣 そくく や 鹽 の くくく けくく
 せくく 鳴 や くくく ぬ の る を 捨 くく けくく
 え かの 系 くく けくく ぬくく 鹽 けくく
 鹽 くく 確 くく ぬくく ぬくく ぬくく
 え けくく ぬくく や ぬくく ぬくく ぬくく ぬくく

護物
 倉丸
 谷雄
 みち彦
 鳥頂
 湖山
 杉木
 篤老

鹽

苜盆

白

流く米く 拵くを 籠の 苜盆
 燭つるや 月さくく ぬくく の 燭子 盆
 り 志 けく けく ぬくく ぬくく ぬくく
 木のりくく や 一白 あけく 擗く ぬく
 けく けく や ぬく けく けく けく 白の 先
 踏 白の 志く ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく
 夕く けく や 一白 の あく ぬく ぬく の 月
 うく ぬく ぬく 米く ぬく ぬく の 擗く けく ぬく
 様 掃く 燈 灯く ぬく ぬく や 確の 擗
 人のり ぬく ぬく や 苜を 確の ぬく

車来
 良女
 太抵
 木海
 谷雄
 一層
 梅塙
 重厚
 鳥頂
 風芝

確

箕

冬川や箕かゝり明るる鴨の羽
箕より余る米はあゝやよ尾の梅
箕ふ飛して縮葉中のゆるる赤守
莊さくや唐箕のわくく小一丁
十をとり梅くめゆるや箕の雀
青柿を庵とくあつむや米 俵
寺納の俵つんぐる角かりる
きしゆるやその俵色しぬる俵
初午や俵のくくのわさるその
あさやうふ葉よりくくおる

暁臺 其翠 赤守 蕉雨 椿堂 一具 松茂 寛雅 一具

俵

藁

繩

帚

葉の火いこのよとくありぬる
あゝ葉より葉あさうけと唐新
はこ葉の淡繩をれて秋のる
水繩のちりうけとあを梅のむ
了辞木さく小田ふああゆるや繩うじ
繩ちあひのとくむりける妻日か
槐よりくあてと本よりうま 帚
初婦やりのせうけるる井 帚
あゝあおやほらさうる井 帚
中右棧の雲り梅よ葉さく

二丘 岐久守 卓池 白鷗 雪彦 梅壽 秋峯 泰里 甘月 伊扇

雀堂

うらひも老くうらめ先雀堂

さき彦

ハ粒の梳故きうそくめ堂

乎馬

祝よりや梳はうけくる雀堂

たる記

芥

初雪の居るもある芥の香

蒼虬

本うらや香けの芥の香

一具

葉や芥は柄うらめおのうら

蕉雨

芥の柄はそくくそく山の階

魯仙

芥の柄もねむうらめ山の雪

護物

鍍槌

鍍槌は身のこくうらめ

一具

鍍槌と掃中人背戸の雪葉

黙巢

釘

壁はうら釘や自見の條

音人

うら葉や移るの釘と雪葉の釘

魯仙

釘の壁は釘うらめ

詠婦

涼はうら鍍槌のやうら

鳥三

夕まやうらやうら柄ぬけ鍍

一肖

春の雪の月うらめ

赤守

柄もあうら葉は信せうら

文水

鎌

一鎌は刈をぬるもあうら

露守

そまうら鎌入らぬうら

呼牛

り秋や新をぬる風見鎌

雪山

轆轤

鎌控く印のひ入たり空の舟

岐久守

轆轤より雪車ハのれぬ流も

乙子

ろく流引家のくくろやちる轆

菱垣

水口は紫押出て田うあつた

卓池

赤いしほはちうのやまをこふ紫新

世南

野ちくや極んとあふる門の紫

年緒

山口や川子に紫は秋のる

玉蓬

あをや聖のくつりの紫一抱

碓嶺

新屋を門をゆれを春日

劇更

新賣の香る年館て来る海

虚白

薪

油

薪より此門あさるやうさつた

迦孫

火と赤の油うける柳のり

曉臺

字の香る油うける香の香

詠婦

権現の油あれて木下 雪

茶静

梅うまうつる秋葉の燈る

劇更

秋の香灯を消して荒鷲あふん

春鴻

うつる燈や水の空さこの及びち

乙人

はゆり此うつと消たり木下

岐久守

こそさあゆめやあまの石燈籠

一消

燈籠

藤南や油氣のあふ、石燈籠

越児

行燈

某の虫のさつ色ふいさの燈籠
燈籠の油平薄る蛙の歌
何〜立門の燈籠や飯の音
行燈の中〜て身足の支度
行燈のうけ〜子に添て丁の字
香家の行燈をわね様
おげ〜も〜〜五月の行燈
雲うげの燈籠は山やわ〜り
藤公英や苔燈籠の下〜み
堅田〜〜〜の道る小燈籠

淡水 復翁 雨齋 乙彦 涼谷 草雅 應々 みる彦 春鴻 若人

挑燈

炬火

挑灯の明〜〜たるよきさうな
挑灯は飛〜〜秋の露
雲鳥の燈籠松のやわ〜り
炬火〜〜〜わ〜〜雪の山
雪を漕ぎや松明の下を降
松明〜毛虫を〜〜や〜〜
炬の火ふ〜〜〜〜〜
冬の戸や屏風不〜〜〜
布の虫〜〜〜の巢をとる屏風
あり〜〜〜〜の言

石湖 寛雅 米彦 蒼虬 弄山 星谷 茶静 甘行 大海 夏桂

帟燭

七

七

篝火

松の山さゆるあしらの篝火の形

樗堂

中よりれあつる玄松の篝火うな

梅地

漁火

いさうさも花の夜跡や時のは

宇洋

いさうさやあつく霞を暮の山

一肖

いさうさやあつく霞を暮の山

漫

いさうさやあつく霞を暮の山

可景

網

網控へ縮つるあつるうさく

鳥頂

幕一本はれし門字よ網の浪

宇橋

網の目をとりく魚はし非魚月

雀叟

あまの目みさうら子風の千をひ

廿月

罾

名月や網の帯の産くちりさる

奎儀

白魚の罾ふうたれはくくうな

草夫

山吹の罾もはくく四ッ子ころな

詠帰

駕

枯あをふくくみきし罾か屋

淡水

罾の破葉やうらうらさめくうな

巢兆

罾やろと罾をうけふあつこり

十丈

糸をる罾や罾も縮の出来

泰里

罾は戸をぬき通るや苗代田

菊所

乗物

あつこりもひくや杖をる罾の月

溪村

あつこりのと静ふあつる罾あつ

蕪村

草鞋

鳥頂の〜草履かきや松の敷
 鳥頂の〜ある備つや藤つつき
 ちり〜と草履のほれる草履
 草鞋の履さうりけあさ山崎
 四月の雨の〜みう古草鞋
 雨二日草鞋を〜身はる菴
 あ〜草履いっれみ膝ん古草鞋
 草鞋うる〜せも小妻よ子ハあまこ
 雨ら〜草履を〜見妻の定
 茶山草履や門の〜ゆる草履

鳥頂
 田形
 逸水
 葛三
 米友
 昌作
 且
 多代女
 虚白
 菊所

草履

下駄

名月や双六ありの草履草履
 草履〜草履草履二り此草履
 いさ〜いやは小義の翼の草履
 下駄さげ〜草履のじろ草履
 下駄を〜傍の〜草履の水
 下駄を〜力の〜草履の水
 うつむ草履の下駄〜草履の
 下駄さげ〜草履の草履

浦山
 三岳
 迦孫
 一草
 一肖
 竹人
 菊
 梅澹

○服食之五

袴

攝待や袴着てある角力五
 衣の字平袴を降よ山の児
 砂とりの袴きうき牡丹う形
 字の字の袴ふつき月足か
 着水は表は袴をぬのせ
 羽織着て袖も字和や川子香
 ふいふぬく羽織も月の光は
 志をうとそ羽織ぬくせのた
 羽織の羽織は流る暑この水

五明
 菊也
 谷雄
 蜷州
 南濤
 蕪村
 成美
 卓池
 阿号

羽織

帯

名梅の折目平き羽織りの形
 弓とりの帯の細さよきとり
 赤人の帯志ぬぬぬかう形
 やま羽子よおのう帯あむ笑ひ
 董那や帯の巻も志ぬぬ
 末くれや帯あさる帯着の袖
 と帯はく帯はくや帯着の完
 と帯あさ帯なすぬ帯着の完
 管玉々袖もあつう帯以ち
 初る志ぬ袖もさ合は茅袴

車来
 蕪村
 春樹
 露谷
 寥松
 野揚
 菊所
 弄化
 岳輅

袖

襟

汗袖のぬれと水室の縁付
青柳や袖吹返はるの上
松風や汐くむ海士の袖の月
くちわりの妻の衣もや襟の垢
梅嗅こぬもや襟は笹の薙
畑くちわは襟はさくたる
初やくと襟は風をく子規
嚏くも襟のとをく朝の露
常くぬれも襟は月風あく
裾僧の手拭あふる襟は方丈

手拭

逸水
名澄
岐久守
檮堂
みち彦
谷雄
星谷
むらこ
蒼虬
菱垣

風呂敷

手拭を巻きて巾着かきり
款こもや風呂敷あけ
菊さくや甘日し柳の小風呂敷
米ありと書く裏戸や栗の花
菱おや一時はこれ米酒
垣あは米つる書やうめのお
脊戸川や蒸姑もく米の水
木槿さくや米つる書を斤あ
茶茶や飯の吹く門釜のあ
比古さふ飯のくや山さく

米

護物
一具
淡水
みち彦
李雪
甫山
菅里
應
太祇
召波

飯

比古さふ飯のくや山さく

召波

粥

餅

芋の葉は飯くひこ布すき汁
 六月や山こし飯とくや月夜
 わの竹の葉ありり芋庵の飯
 菊の葉ふる粥こむる庵小
 新あく芋粥こく山家うる
 大桶も粥こりりぬ山月
 本粥の味を覚ええの初ゆり
 餅もちや藪芋をすき入
 表ふ入の餅はちくこむ火箸か
 水餅の米も落し梅桂

葛三
 斗入
 茶静
 保吉
 省吾
 多代女
 如泡
 長翠
 来汐
 一肖

塩

味噌

引くく餅は極くこ小松汁
 菜の葉餅すくすれ葉清汁
 味噌の塩やくん乙ろ束
 塩買て腐りち葉ぬ交木立
 明月の膏も塩盡る窟水
 陽冬や葉もあまるあられ塩
 芋人の味噌の涵葉や葉の薑
 味噌もわさく朝やうあはむ
 新葉や葉も味噌を焼白ひ
 畑まのみを仕らみろ里社の風

嵐外
 夏桂
 梅壽
 尔弓
 淡水
 葛古
 古波
 蒼嵐
 来鷹
 啓山

汁

大和柿のみそふあきくろくく候
根原汁 杉中 八りのくちくくく
うち豆の汁も折あくまの風
多分や茶を多く宿のいとお汁
百合紅あや汁も痛意も山のさ
桃さくや汁の冷くは掃茶
六月ハハの茶伸小新茶
蓮のあやや茶を申くろ茶一杯
三日くろ茶をくろく茶の湯
障飛や掃茶はあは茶の白し

寛雅
保吉
与人
迎孫
茶静
草雅
巢悲
椿堂
措来
黙巢

茶

素湯

茶よりくまをまきり雪降るる降
くちくくくも落葉く高や湯の甘
杉むくやあくくくくくく
素湯甘く極くく茶の湯のこれ
初湯のくくくく茶の湯
ゆくあやまをくや湯の七くく
湯ありとゆくくくくく
夏の初や茶飲もあくく湯の味
浅鴨くあのとくくくく湯の味
酒盛く初のくくく氷室の日

小圃
みち彦
茶静
南澗
保吉
椿堂
卓池
谷雄
梅壽
呼亭

酒

酒盛

酢

繪

酒の里よきつらうらり蓮のそ
 木口見のね扇蓋や呼あ 鶴
 出うまうりや学鞋をいその小扇蓋
 是くくさや酢の口ぬるさるは月
 朧のそつに秋ふきくさる菊のむ
 涼くさや夢むしをぬ朧のこい
 朧を思ひて扇蓋を空の月秋ふ
 燈は遠るりのや秋冬の水以鱗
 やれ垣や暮まきし氷以鱗
 雪の啼や去来り 柿 鱗

千 輅
 春 路
 木 木
 三津人
 寛 雅
 良 女
 岐久守
 才 雅
 石 年
 迦 孫

肴

豆腐

鮭のりさあとのあや河うえる
 江の傍や傘しりけり 夏 肴
 手のむくふ伊豆のわの葉や芝肴
 竹う煮て魚はくさると思ひくさ
 濱りの肴呼ひぬ春 肴
 何やうやうさうさうさ肴
 枝棧のきくさふたり豆腐肴
 木のりさ豆腐肴あしを棧
 湯豆腐も蓋と茶と 芒 肴
 毛凍と流の付り 豆腐 肴

五 陵
 巢 兆
 多代女
 茶 静
 南 壽
 僕 物
 早 池
 星 谷
 真 澄
 石 湖

菟^コ薬^シ

宜敷や二三日来ぬ厚膚くり
 あるく中不菟薬もまきれ風
 菟薬もつとよふ月ま吉ひより
 こまやくも跡毛のうけ一語か
 菟薬のうへもよとてる余まきりま
 初午や良布不山林の袖にやけ
 西に居る良布引まらや秋の風
 五月るや良布不通より良布の境
 山の梅煙も不辨くおきくは
 かまらるる煙毛の細くうらまを

大 厄
 青 蘿
 冥 々
 但 言
 成 大
 存 義
 星 譜
 甘 月
 涼 谷
 蒼 虬

菟布

煙草

薬

井はらまらるる煙草のおくあり
 卯のちびりくつる何くじや良煙草
 多葉粉火もくくぬ在雨やむる落葉
 撰作の葉ふくくくまの葉うけ
 いか書め葉体くくく膏のそ
 新起ち人のくくくよりのそ
 たさ鳥やまのくくくく拖葉札
 このまら葉りちるを秋の除

佛 病
 知 扇
 寛 推
 几 董
 蒼 虬
 雨 林
 多 代 女
 菊 角

南園

一志